

宮崎市における終末期医療の取り組み

住みれた地域で安心して暮らし、安らかに看取られるために

～わたしの想いをつなぐノート～

宮崎市健康管理部長

伊 東 芳 郎



終末期医療をめぐる現場の話...

- 医療の現場から

救急で運ばれてきた患者に延命治療を行ったところ、家族が望まない。

「患者本人の希望」と「家族の希望」が一致しているか判然としない。

- 介護の現場から

認知症で、本人の意思が確認できない

- 延命治療を巡り家族の間で意見が違ふ

※ 在宅医療の政策を検討するときに避けて通れない「看取り」の問題。

【様々な意見があることの実感】

都会 ... 人生の最期くらいは、モトーンの病院のベッドではなく
お金をかけた自宅(マンション)で過ごしたい。

田舎 ... 人生の最期くらいは、病院にかかって死なせてあげたい。

障害者 ... 事前に延命治療をしなくてよいと決めていても、
いざとなれば生きたいと思うものだ。

全国統一的な取組みとは別に、地方で取り組めることがあるのではないか？

平成25年度に「在宅療養支援事業」を立ち上げ！

【背景】

- 最近は、平穏死、終活、エンディングノートと言った終末期を考えさせる書物や映像が増えている。
今や高度医療によって多くの場面で延命は可能であるが、仮に短くとも質のよい人生を送りたいと思う人が増えている。
しかし患者自身が最期まで意識清明な状態で治療内容を自ら決められることは稀であり、家族が変わって決めることが一般的である。
ところが本人の意思は必ずしも家族に伝わっておらず、意見を聞くべき「家族」の範囲も規定されていない。

【目的】

- 市民一人ひとりが、将来の意思決定能力の低下に備えて、人生の最期の時間をどこで過ごし、どのような医療を受けたいか、元気な時から意識し、考えていくように情報提供する。
- 住み慣れた環境でできるだけ長く過ごせるよう、また望む人には自分らしい終末期を迎えることができるよう情報提供し、市民が在宅療養について理解を深める。

検討のなかでは...

○行政が取り組む際に必ず押さえておきたい点

- ・誤解のないようにすること。医療費のためにやっていない。書面として残すことが大事なのではない。
- ・治療を「しない」希望を残すためだけでなく、治療を「したい、して欲しい」という希望を伝え、つなぐこと。
- ・誤解した時に、きちんと対応できるようにしておくことが大事。
- ・水先案内人ができる医療従事者を育てること。

○エンディングノートに関する意見

- ・たくさん書店から出ているのに行政が作成する必要性は？
- ・市としてはエンディングノート使用に向けてのガイド本を作成する方針ではどうか？
- ・エンディングノートを所持していることを表示させてはどうか？
- ・「エンディング」という名称も、今はブームなので理解されるが、ブームが去った後は、名称だけ先走り誤解を招くかもしれない。

自らの意思を決めるにあたって...

- 既存のエンディングノートでは
延命治療を望むか ・ 望まないか
の2択が多い。
- 延命治療も様々。
延命治療にはどのような医療行為があるのか
知らないで選択するのは難しい。

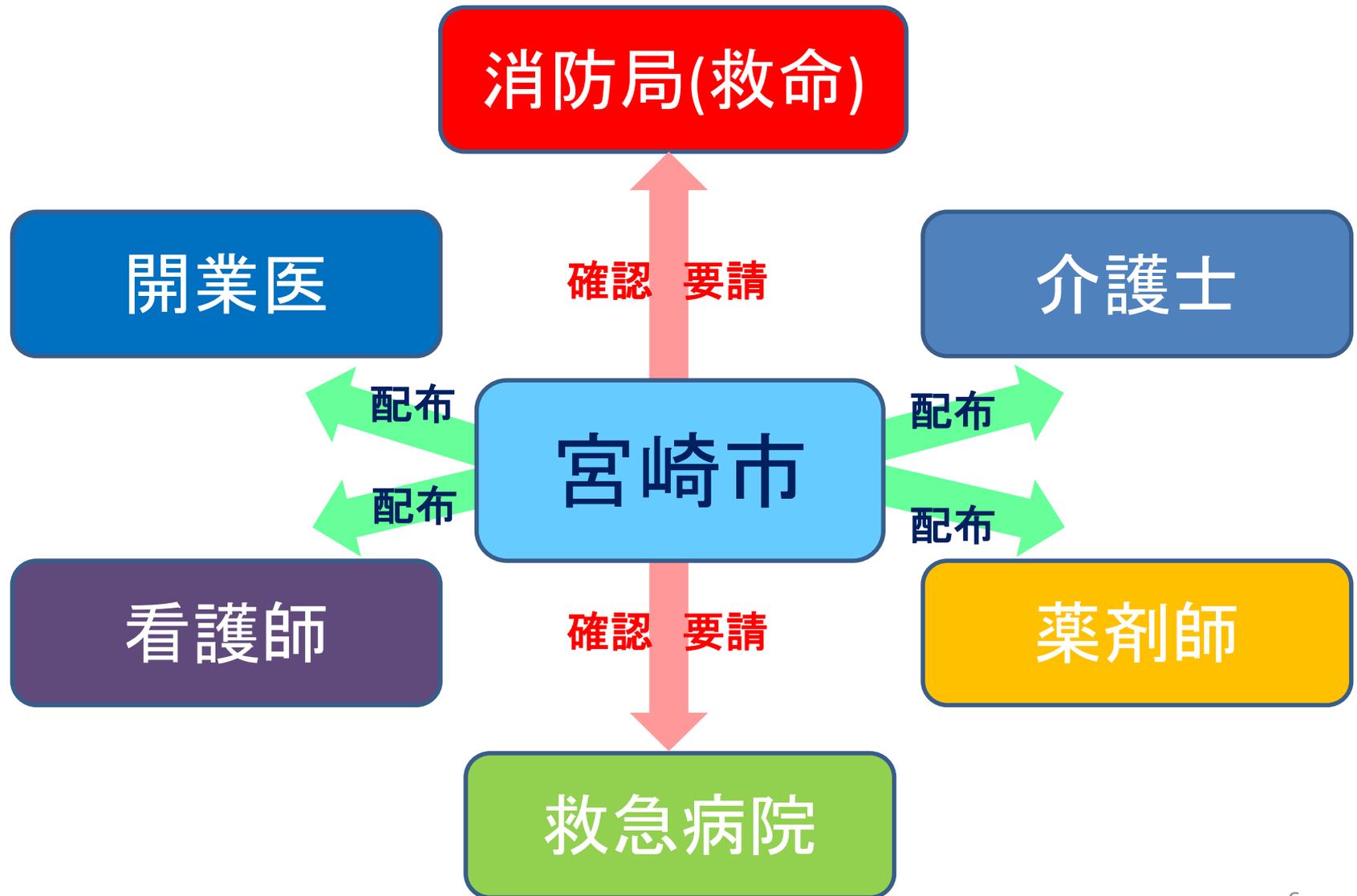


- イメージできるように、手引きで解説。
- さらに実例も紹介。

【「わたしノート」プロジェクトの目指していること】

- 全国的にも「エンディングノート」が取り上げられるようになってきているが、これを一過性の流行のような現象に終わらせるのではなく、それぞれの地域特性に根ざした実効性のある仕組みにしていく必要がある。
- すでに病気を抱えている患者だけでなく、家族や市民一人ひとりが、将来の意思決定能力の低下に備えて、人生の最期の時間をどこで過ごし、どのような医療を受けたいか、元気な時から意識し考えていけるような情報提供、支援体制を整備するために、医療・看護・介護・消防等を包括する「広域連携体制の構築」を目指す。

関係機関との連携



「悩みながら、気持ちは揺れながら、決められない」
「一度決めたけど、気持ちが変わった」

というのも、あっていいこと。

- 一人一人が
- 自分らしい人生の最期を迎えるためには、
- 元気なときから、
- 家族と一緒に、
- 人生の最期の時間をどこで過ごし、
- どのような医療を受けたいか、

考えていただくことが重要

それでも書くのは難しい...

- 配布する場所
 - 市保健所、保健センター
 - ご協力いただける医療機関、薬局、介護施設、地域包括支援センター

【医療・介護関係者が説明しながら配布】

周知する側が押さえておきたいポイント

- 「書く」か「書かない」かは本人の自由
- 書くこと自体を強要しない
(「書きたくない」という人には無理に渡さない)
- 療養中の方には、提示のタイミングが極めて重要
- 書くことよりも、何度も話し合いの場を設けるという過程の方が大事
- 書いたら、ご家族や親戚の皆さんと内容を共有することが大事
- 「延命治療をしないこと」だけでなく、「治療したいこと」を伝えることも大事
- 書き直しはいつでもOK！(定期的に見直しを)
- 保管場所はわかりやすいところに
(保険証とセット、場所を誰かに伝えておくことが大事)
- 質問があれば、いつでも答えられる体制作りが必要